

# ごあいさつ

内田 青蔵(非文字資料研究センター センター長)

非文字資料研究センターは、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の研究成果を継承・発展させることを目的に 2008 年 4 月に創設されました。

非文字資料とは、その「非」文字」という名称に象徴されるように、文字以外による記録、すなわち、絵画・写真・映像などの図像資料から、環境・景観に刻まれた自然災害や人的活動の痕跡、さらには匂い・味覚・身体動作など文字化されにくい様々な表現行為なども含みます。

本研究センターでは、こうしたこれまでほとんど研究対象や研究資料として扱われてこなかった非文字資料に注目し、その資料化・体系化を進め、新しい人類文化の研究の可能性を探究することを目指しています。

新研究領域としての非文字資料研究の確立・発展とともに、研究拠点としての役割の一環として、世界各地の非文字資料関連の研究センターや研究者と積極的にネットワークを構築しています。現在、本研究センターでは、中国、韓国、カナダ、ブラジル、ドイツそしてフランスを拠点とする 9 か所の大学・研究機関と提携し、情報交換を積極的に展開し、併せて、これらの研究機関との間で、これからの非文字資料研究を担う若手研究者の育成を目的に、相互の短期招聘ならびに派遣事業を実施しています。

本研究センターの研究活動は、研究テーマ毎に共同研究班を組織し、3 年間を単位に行われ、2014 年度からは第 3 期が始まります。第 3 期では、本研究センターの基幹研究である生活絵引編纂共同研究をはじめ、これまで行われてきた共同研究の継続とともに、新たに戦時下の大衆メディアに関する共同研究を加えた 8 つの共同研究が開始されます。その研究成果は、今後、論文として発表し、また、公開研究会という形で議論の場を一般公開します。研究員及びスタッフ一同、非文字資料研究の拠点としてその役割を果たすべく、努力していく所存です。今後とも非文字資料研究センターへのご支援とご理解をお願い申し上げます。